



私たちは多摩丘陵の一部である久本山・熊野森とその周辺の自然と歴史と文化を活かし、保全活動を通じて、次の世代に引き継ごうとする自然保護のグループです。(川崎・多摩丘陵の里山を守る会)



そうしたわずかに残された緑を残し、里山の自然を守るために、この1年間さまざまな活動をしてきました。

川崎・多摩丘陵の里山を守る会

第2回総会報告

(2001年9月9日)

2001年9月9日(日)10時、高津市民館第6会議室にて、運営委員の草井さんの司会で予定通りに始まる。

「次第」に従って、代表の伊中さんの挨拶がある。

1. 代表挨拶要旨

川崎多摩丘陵には古来「多摩の横山」と言われ、豊かな緑の丘陵が多摩川に沿って伸びていました。しかし近年の開発でその緑も減少の一途をたどっています。東京側の緑はまだ残っていますが、とくに川崎側の緑は切れ切れになっていきます。その多摩丘陵の先端部に熊野森が位置していますが、その周辺の開発の勢いは凄まじいものがあります。この1年の間に熊野森は掘削された崖の裂け目から大地のうめきが聞こえるような、マンシヨン建設の現場となっています。しかしその奥には、白樺林や竹林などが残っています。

昨年10月には、多文化フェスタに参加して高津市民館の屋上でバザー、11月には竹垣作りを学んでおでんパーティー、2月には寒中の久保台公園でトラストまつり、3月には里山学習会、4月には「里山21世紀」の上映とシンポジウム、また、江戸見校とヴァイオリンのタベなども印象深いイベントでした。そして第3土曜日を中心に、里山活動など、いろんな企画を考え、人々の理解を得てきました。

里山を守るための活動と、トラスト運動の推進。試行錯誤の中で精一杯の活動をした1年間でした。そして都市の中のトラスト運動は本当に難しいと感じさせられた1年間でもありました。

しかしうれしい動きも随所に見られます。熊野森の先の白樺林辺りが、川崎市環境局緑政課によって緑地協定が結ばれたそうです。また7月には川崎市公園緑地課によって、末長町会の人たちとともに、「パースシティ末長」の提供公園の計画に対して、ワークショップの形で検討する会議のメンバーとなることも出来ました。これから本格的に公園の計画構想を考えることができる関係になったことは、大きな意味があると思います。これは、里山のボランティア活動を地域の人々とともにできるはじめの一步になるはずで、私たちの活動で、里山をすべて買い取ることはできません。しかし1つの小さな里山を守り育てる運動はできます。そしてそれを理解する人たちや、里山活動に参加する人た

ちが増え、人の踏み込まなくなってきたり、荒れてしまった恐ろしい里山が、美しい親しみのある里山に育てば、その周りの里山を守り育てる力も運動も生まれてくると思います。私たちの里山を守り育てる運動を、皆さんとともに広げましょう。

2、議長には山口さんがなりました。

3、議事審議

①第1号議案の2000年度活動報告が田村さんからありました。熊野森・江戸見校・ターザンの木・岡家庭園などを中心にした活動及びイベントの実施・地域の里山活動などとの交流などの様子が報告されました。次に第1号議案の2001年度活動方針の説明が伊中さんよりありました。

・斜面緑地の緑を安全に保全するためにも、里山活動の勉強会を続けます。溝の口駅から望む鬱蒼とした緑は、大山街道とともに、この街の景観のなくてはならないものです。年々この形が薄くなり、失われていく自然を呼び戻すことは、ほとんど不可能に思えますが、私たちが目指すところは、残された自然を守り、育成することです。出来る限りの保全活動です。こうした活動が緑と調和でき

できる都市を作っていくと思います。残された多摩の横山の美しさは、都市化の中で、調和と共生の暮らし方を指し示していると思います。この自然の中の貴重な動植物の観察もしていきます。そして緑のカルテや緑の財産目録ができたらいいなと思っています。また津田山でも斜面緑地の保全に向けたワークショップが始まりましたので、そこでも連携した活動を目指します。そして季節ごとの伝統行事に自然のあり方を見直しながら、里山の楽しみを追求します。

・活動への公的な助成金を得られるよう努力します。」

市の緑地政策と緑の予算の増額を働きかけ、斜面緑地などの保全に対して公的助成が出るように働きかけます。

・「毎月第30曜の定期的な草刈、クリーン作戦などの活動を定着させます。」

・「岡家の庭園をはじめとする地域の文化遺産を守る活動を続けます」

・「ホームページの充実を図ります。」

・「他の団体との交流にもつとめます」

第1号議案に関し、いくつかの意見がありました。

(意見)

○ハイキング同好会を作ったらどうか。

○ハイキングコース紹介の掲示板の設置や周辺地図の配布など宣伝にもお金を使う必要がある。

○提供公園と関連付けて周辺の緑地調査及び緑地保全計画をする必要がある。

○提供公園と関連付けて周辺の緑地調査及び緑地保全計画をする必要がある。○県のトラストにも働きかける必要がある。

第2号議案の2001年度会計報告が久保田さんよりなされました。会計監査をしていただいた平井さんより、会計は適切であったとの監査報告をいただきました。続いて2001年度の予算案の説明があり、了承されました。

第3号議案の2001年度運営委員の選出で、以下の運営委員が選出されました。

代表 伊中 悦子

運営委員

田村喜美代・田中 郁子

草井 綾子・久保田由紀子

全体のまとめが田村さんによりなされました。

ただいま了承されました活動方針・予算に従って、毎月の草刈りやクリーン作戦という地味な活動を基礎としながらも、活動が小さくならないよう、豊かで楽しい広がりのある活動になるように活動していきます。

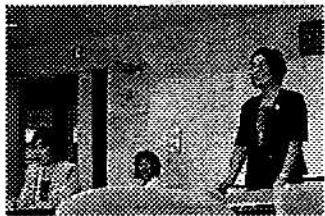
特に2001年度の活動で重要なのは、ペースシテイ計画で提供される公

公園のワークショップです。市民の意見を最大限取り入れ、市民が協力管理することを目指す公園です。この提供公園を核にして楽しい夢を描けるように積極的に参加していきましょう。

総会後、猪俣議員特別講演

「元氣のてる話」

信楽市の「まちづくり条例」がすばらしい。身近にあるお地蔵様やいつも見る町の中の大きな木など、市民の身近にあり、残したいものを出してもらい、それを市民の財産目録とする。そして心無い開発に対しては、市民の意思として保存を訴える。すばらしいまちづくり条例だと思います。またニセコ町の「まちづくり条例」もすばらしい。「住むことが誇りに思えるまちづくり」が基本で、情報公開・住民参加の充実が実現しています。『もつと知りたい町の仕事』という冊子が出ていて、そこには町の仕事のすべての内容が紹介され、経費のすべてが乗せられています。また主要な事業については計画構想の前段階から誰もが参加でき、自由に議論のできる「住民検討会議」(円卓方式)で、参加者がお互いの情報を共有する中で話し合いが進められた結果、



2001年度活動予定表

住民相互の理解が進み、活発な議論の中で住民の手による「合意形成」が着々と進んでいるそうです。こうした積極的な情報公開と「住民参加」が必要です。こうしたよい先例をどんどん取り入れて、緑を守り育てましょう。

2001年度活動予定表

- 9月 トラスト通信秋号発行予定
- 9月22日土 草刈など秋の里山活動
- 9月30日土 お月見の会
- 10月20日土 里山活動
- 11月17日土 里山活動
- 11月25日日 トラスト歴史散歩
- 12月15日土 里山活動
- 12月 トラスト通信冬号発行予定
- 1月19日土 里山活動
- 2月16日土 里山学習会
- 3月16日土 里山活動
- 3月 トラスト通信春号発行予定
- 4月 「春の江戸見校の会」開催予定
- 4月 植物観察会
- 5月 里山活動月2回予定
- 6月 里山活動月2回予定
- 6月 トラスト通信夏号発行予定
- 7月 里山活動
- 7・8月 第3回総会企画・準備

みんなで参加しましょう。詳細は事務局にお問合せ下さい。

パースシテイ末長建設工事に伴い提供される公園計画の

ワークシヨップに参加して

平成13年7月31日、8月29日の夜、末長組と川崎市環境局公園緑地課及び近隣の市民でワークシヨップが行われました。末長町会長、川崎・多摩丘陵の里山を守る会代表の挨拶の後、末長組の工事計画では、ワークシヨップを進めながら9月～10月で公園の実施設設計をし、11月～12月に管理計画を、来年の1月～3月に公園工事を行う予定が説明されました。

初回は、近隣在住の方から雑木林として残した場合の管理の煩わしさや、なぜ市民参加が必要なのか説明を求める意見が出されました。私達の里山を守る会を反対運動と誤解している方もいて、川崎市の方が訂正する場面もありました。

2回目は市でたき台として、公園のゾーニング案をだしてきました。問題となったのは、この川崎市に提供される公園に行こうとしたとき、マンシヨンの中を通らなければならないことです。定期的に管理され全国のモデルとなるような雑木林の公園になっても、近隣者がノコギリやカマを持ってマンシヨンの中を快く通行できるでしょうか。たった一方所公道に接する部分は急斜面で、

お年寄りや体の不自由な方は通行が困難です。マンシヨンの中を通らずに行けるよう市道20号線と繋がる散策路を作って欲しいという意見も出されました。

また、熊野森の歴史と文化を尊重するような公園、野鳥やタヌキやアカネズミ達が戻ってくるような公園を望む声もあがりました。熊野権現の復活は難しいという地元の意見でしたが、新たに在住するマンシヨンの方々に末長の歴史と文化が伝わり、住むことが誇りになるようなまちにしたいと思います。

地元の方の中にはワークシヨップ参加が初めての方も多く面食らってしましますが、よりよい公園にしたいという点では、市民も末長組も川崎市も同じなのです。多くの方が参加されて知恵を絞る、故郷として愛されるような公園にしていきたいと思います。



「久地緑地の自然観察と

森づくり体験」に参加して



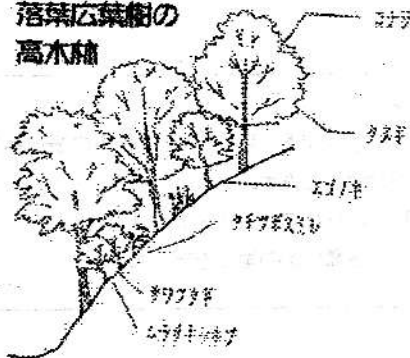
メダケでヘッジ作り
昆虫の棲家になあれ

津田山駅を挟んで霊園と反対側の久地緑地は住民の力で地下室マンシヨンの建設の難を逃れた幸運の緑地と聞いていました。秋晴れの九月十五日、現地に着き斜面を見下ろすと、わずか〇八むですが、緑地の茂みから新鮮な空気が流れているような息吹きを感じます。一番高い場所が集合場所になっていて、やや平坦になっています。そこで、説明を受けてから斜面の雑木林へ探検に行きました。当日のための作りたての急な道を降りていくと湧水がありました。まわりは、常緑樹、笹、やぶらんななど、多数の草花と自然の恵を濃縮した雑木林です。景色として緑を眺めるのももちろん良いのですが、雑木林の中に入ってみると自然の宝庫を間近で味わえます。すべります、危ないですと注意され、ドキドキしながらも下りて良かったと思います。そこで植物の説明を聞いて、急勾配な道を頂上へ登り、少し休憩し、ヘッジづくりを体験しました。

皆で竹を切りだし、囲いを作り下草をその中にまとめました。以外なことに短時間で完成してしまいました。大勢の参加があつてできることでした。住民が集まって手入れをしていけばすばらしい緑地になると実感しました。

この催しは、川崎市環境局緑政課が計画した久地緑地の森づくりワークシヨップです。今後ボランティアの手でこの緑地の手入れをしていくそうです。歩き易い緑地にするか、自然保護を重視するかなど様々なことを、緑政課と住民とで決めて作業が進んでいくそうです。行政と住民が協力して川崎の里山を維持していくという堅苦しいですが、参加してみると意外と簡単かもしれません。むしろいいと思いました。

落葉広葉樹の
高木林



お月見の会

去る9月30日
(日) 5時半、江戸見

見桜でお月見の会を予定してました。前日から江戸見

桜周辺の下草刈り・祭壇・ベンチ作りなど、準備万端でしたが、残念ながら、お月見予定時間3時間ほど前より雨が降りだしました。そして次第に本格的な雨となっていました。

お供えのお団子やスキやお芋や果物なども準備したのに・・・。テナーの歌声の持ち主にはまたの機会にお願いする事としましたが、お供えをどうするか困っていました。誰言うともなく、増福寺にお供えしようとのこととなり、和尚さんのお話も、ぜひ聞こうということとなりました。急遽増福寺にお願いすると、快く引き受けて下さいました。



増福寺では、和尚さんが美しかった末長の昔を懐かしむように、古代から和尚さんの少年時代の話などいろいろな話をしてくれました。

鍛冶屋の安さん

末長の昔話(前号つづき)

安さんは、あたりが暗いので相手が何者かわかりません。だんだん近づくと先頭の男がいました。

「やいやい、どけどけ、まむしのごんさんのお通りだ。早くどかないと谷へほおりこむぞ。」

といたけだかになってどなります。安さんは「こりや悪いのに出合ったわい」と思いましたが、何しろ細い谷道ですから今来た道を引きかえさねばなりません。安さんは棒立になって思案しているとき、さっきの男がいきなり安さんをつきおとそうとぶつかって来ました。ところがかじやの安さん、そんなことぐらい、びくともしません。相手の男ははじきかえされて谷へころころと落ちてしまいました。

そうなると次から次へと子分達が向かってきました。みんな谷へ落とされてまむしのごん一人だけになりました。ごんは、さすがに親分だけあって力がありました。安さんはかえりません。たちまちその場に組みふせられて、「どうだごん、お前も谷へほうりこんでやろうか。」

というとき、ごんはその場に手をついて、「どうか命をお助けください。」と平あやまりにあやまったので、その背中の上を歩いて我が家に帰りつきました。

それからはこのならずものは二度と末長方面へは来なくなつたそうです。村の人はこの話を聞くと唄を作りました。それは、

おいらはかじ屋の安さんだ、へーびもまむしもどーけどけ、やりもかたなももつてるぞ。

大正の初め頃までよく歌われたそうです。「かわさきのみんわとでんせつ」より

事務局だより

江戸見桜・ターザンの木を見にきてください。周辺にあった熊野森から切られた木々がゴロゴロ野積みされていて、痛ましい状態です。

11月から東京電力の送電線張替え工事が始まります。その際にも鉄塔周辺の木々を切るようになるそうです。市の緑政課の働きかけで、最小の伐採に留め、翌年の8月の工事終了時には、森再生のためのワークショップを開いていただけることとなりました。

森を残すには、森を愛する人たちの参加が必要です。皆さんの活動への積極的な参加を期待しています。

事務局連絡先 044-866-7005(伊中)

里山を守る会の会員を募集中！
事務局に電話下さい。
トラスト基金への寄付もお願いします。

基金のお願い (積み立てます)
一口3,000円以上、高校生以下1,000円です。
振込み用紙は、郵便局にあります。
口座番号 00280-2-53172
加入者名 久本山・熊野森ナショナルトラスト

会員募集
年会費(8月から翌7月まで)2,000円の振込みを郵便局でお願いします。
口座番号 00270-1-53171
加入者名 多摩丘陵の里山を守る会